

◆【海員随想】はるかなる南氷洋① 谷頭正仁

― 日新丸、第2日新丸、第3日新丸 ―

第18次南氷洋捕鯨第2日新丸船団、自分は冷凍船明洋丸次席三航士。

南氷洋捕鯨は大洋、日水、極洋の3社の参加である。母船、捕鯨船、冷凍船、タンカー、沖積船、20隻近くの参加となり、1つの村、1つの町の大きさである。

昭和38年11月、横須賀出港、何日だったろう。学校卒業は37年3月、乗船2隻目、南氷洋は未経験。

乗船した日、船長の「君の経歴は？」という言葉は忘れられない。とにかく周囲の人全部に迷惑を掛けた。天測は何とかできると思っていた。しかし最初の日、時間修正の計算を間違えた。首席三航士がかばってくれた。いろいろなことがあった。何が何だか分からなかったが、気分は重たかった。ヒゲ鯨漁解禁は12月8日だったから、その前に漁場に着いたのだろう。

初めてのことで作業着の数は、下着の数は、防寒着は、などはともかく、トイレットペーパーの数、石けんの数、歯磨き粉の数も難儀した。横須賀の沖売りを利用した。

酒はトリスを中心に12本持っていた。首席三航士は「3本だ」と言っていた。

出港祝い、赤道祝い、漁場着祝い等々、酒1合と羊かん、白桃缶などがもらえた。みんな楽しみにしていた。祝いの形式は大洋、日水、極洋で少しずつ違っていったようだ。

航海中と漁場では仕事が違い、当然当直の形が変わる。航海士は0時-4時、4時-8時、8時-0時 各1人、甲板当直1人、通常一航士。甲板部員は2つに分かれ、8時間の回し当直、機関部の当直は変わらず、操機長以下のいわゆるスペアが2つに分かれ、12時間当直となる。

無線室は変わらず。司厨部は12時間交代2直制になったと思うがはっきりしない。社員は12時間交代になり、事業員は8時間交代になる。員長と次長は12時間交代。

「海員だより」